振り付けテーマ曲がなぜ「展覧会の絵」なのかについて：

1997年頃、TV東京にて『たけしの誰でもピカソ』という視聴者参加型番組が放送されていました。
その時のオープニングテーマ曲が「展覧会の絵」でした。

そこで「展覧会の絵」をMIDIで作り、VRMLによる振り付け行ない、芸術作品を作ることにしました。
番組に参加したい一心で、21世紀のピカソを目指し、一生懸命、MIDIとVRMLを制作しました。

当ホームページ制作の全ての原動力は、『たけしの誰でもピカソ』の存在でした。
収録見学に３回行きました。数回応募しましたが、参加はかないませんでした。

メインテーマは「地球にどのような絵を描くか？」(地球アーティスト)ということにしておりました。
なお、当ホームページを貫くメインテーマも「地球にどのような絵を描くか？」ということです。

1997年当時、近所のスナックにピアノ科の女子大生３人組が来ておりました。
ムソルグスキーの「展覧会の絵」のピアノ曲の楽譜を売っているお店を知らないか聞いたところ、
連れて行ってくれるというので、連れて行って買って楽譜(掲載楽譜はその冒頭)を買ってきました。
近くのインドカレー屋さんでテーブルいっぱいのお礼をしました。

さて、パソコンへの音符の打込みは「ド、レ、ミ」でも「ハ、ニ、ホ」でもなく、
「アーベーツェーデーエーエフゲー（A、B、C、D、E、F、G）」なのです。
これには、参りました。
「ド、レ、ミ」から「A、B、C」への頭での変換に時間が時間が掛かること掛かること。

そこで、女子大生に「A、B、C、D、E、F、G」の書込みをお願いしました。
さすがは女子大生、雑談をしながら、反射的に、目と手が直結している感じでスラスラ書込んで
くれました。

アンパンマンの落書きはその時に女子大生が書いたものです。

ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」のプロムナード：24小節、キエフのボガティル門：174小節、
合計：198小節について「A、B、C、D、E、F、G」の書込みをしていただきました。

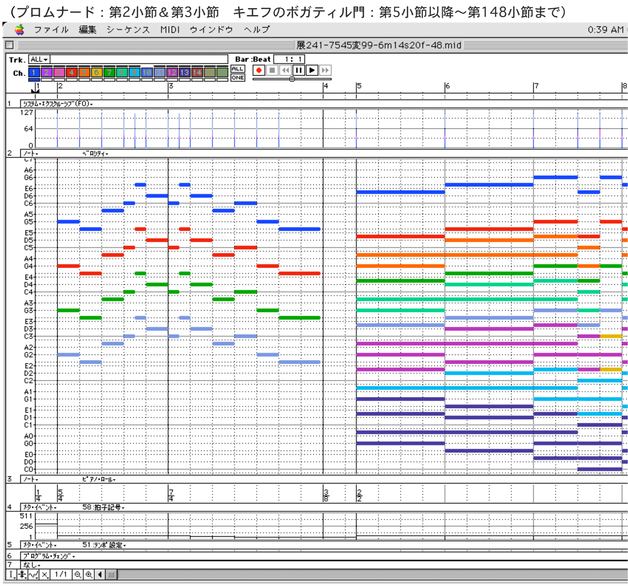
198小節全部を自分でパソコンに打込みました。

本当は、曲に動画の動きを合わせたかった（振り付けをしたかった）のですが、
それは至難の技ですので、
動画の動きに合わせて、曲をアレンジすることにしました。

その結果、
「プロムナード」は冒頭の2小節を残し、
「キエフのボガティル門」は途中点々と合計30小節を間引きして144小節、
調整小節を含めて合計148小節からなるアレンジ曲を作成しました。

アレンジ後の「展覧会の絵」の冒頭部分（パソコンのMIDI画面）

（プロムナード：第2小節＆第3小節　キエフのボガティル門：第5小節以降～第148小節まで）



心残り：

1）ソフトシンセサイザーで音符の組合わせを実施したせいかどうかはよく分かりませんが、
　低音のノイズが気になります。
　まだまだ、工夫の余地は残っていると思います。
2）動画の動きに音楽を合わせた結果、音楽のテンポの急変が気になる箇所が残っています。
　随分時間を使ってテンポが滑らかに変化するようにしたのですが、時間の限界です。
　時間があれば、一音毎にテンポ調節したいところですが。
3）曲の終盤に、シンバルの音を入れて曲を盛り上げた場合どうなるかが気になるところですが、
　時間が取れないので未だやっておりません。
　もっとも、「森羅万象無常曼陀羅」はどちらかと言えば静寂を旨としますので、いまのままでも
　よいのかとも思っています。
4）いつの日か、ハイビジョン品質での動画取込みを行ない、ノイズのないオーケストラ演奏の曲付け
　を行なった作品を作ってみたいと思っていますが、生きている間に時間が取れそうにありません。

最後に：

元々は、
「振り付けテーマ曲「展覧会の絵」のMIDI製作裏話」も
「「森羅万象無常曼陀羅　秋」VRMLソースsource」も
「森羅万象無常曼陀羅　秋」のページにリンクを置いていましたが、
「森羅万象無常曼陀羅」のページがこころの場であることに鑑み、
現在の場所に移し再構成した次第です。